

平成30年度

学校関係者評価報告書

令和元年12月20日

学校法人原学園
専門学校青山ファッションカレッジ

平成30年度 学校関係者評価報告書

専門学校青山ファッションカレッジは、「服飾分野」の専門課程の認可を受けた専修学校として、わが国のファッション・アパレル関連産業諸分野の中核を担う優れた人材を育成し社会に貢献することを目的として運営されています。

本校では、平成29年1月に定めた「学校評価実施規程」に従って自己評価委員会を設置し、本校の運営および教育活動について自己点検・評価を実施しています。

その自己点検・評価の結果を、意見交換を通じて評価することを目的とし、学校関係者評価委員会を開催しましたので報告します。

1. 実施日時・場所

令和元年12月12日(木) 15:00～17:00

専門学校 青山ファッションカレッジ 会議室

2. 実施方法

(1) 実施組織：学校関係者評価委員会

評価委員

安達 稔 業界関係者(ファッションデザイナー)

津澤 めぐみ 保護者(ファッションビジネス科1年)

伊藤 彩 卒業生(スタイリスト)

学校関係(オブザーバー)

江口 崇裕 (校長)

横山 由美子(事務局職員)

面田 憲郎 (教務職員)

(2) 評価方法：平成30年度学校自己点検・評価報告書に対する学校関係者評価

3. 自己評価は、以下の10項目を実施。

(1) 教育理念・目的・育成人材像

(2) 学校運営

(3) 教育活動

(4) 学修成果

(5) 学生支援

(6) 教育環境

(7) 学生の募集と受入れ

(8) 財務

(9) 法令等の遵守

(10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価委員の意見・評価 学校としての見解

(1) 教育理念・目的・育成人材像

学校の理念・目的・育成人材像は、明確になっており、時代の流れや社会のニーズを踏まえカリキュラムに反映されている。

(2) 学校運営

業務運営方針を毎年策定し、教員・職員に周知し実際の業務運営に繋げ、適切な学校運営を行っている。

(3) 教育活動

教育課程は、教育理念を踏まえ、就職に必要な知識・技術の習得とキャリア教育を重視し編成されている。実務経験を有する教員を多く配置し、シラバスを設置して教育到達レベルを明確にするとともに、成績評価基準の明確化を図り、GPAによる学習成果の把握を可能にしている。なお、GPAがどのようなものか分かりにくいので、何らかの方法で保護者に説明するべきではないか。

GPAについては、学校説明会など様々な機会を通じて、ご理解いただくように心掛ける。

(4) 学修成果

学生一人ひとりに、きめ細かい就職指導を実施し、就職率は良好な結果となっている。資格取得は学生本人の自由意思としているが、対策授業・個別フォロー - など適切な指導を行っている。なお、成績が就職にどう繋がるか、その指針を示すことはできないものか。

成績は良い方が就職に有利だが、コミュニケーション力など他の要素も審査されるため、成績の良し悪しが就職に直結するとは断言しがたく、成績から就職に関する指針を示すのは難しい状況にある。

(5) 学生支援

就職担当・クラス担任を中心に全教職員が個別指導により手厚い就職支援を行っている。また、円滑な学生生活が送れるように、学生との面談や各種相談など、クラス担任を中心に全教職員が受け入れる支援体制となっている。経済的支援に関しては、家庭の事情に合わせて納入期限延長や分割などによる支援を行っている。

(6) 教育環境

教育上必要な施設・設備・教育用具等が整備され、メンテナンスも行き届き快適な学習環境を提供している。インターンシップ等の学外実習にも積極的に取り組んでいるが、欧州研修旅行はテロ以降、参加希望者の減少により休止しており、再開に向けての対策が必要。防災・完全管理に関しては法令に基づく点検等を実施するとともに、校内巡回および防犯カメラを設置するなど、防犯・火災予防に取り組んでいる。インターンシップに関しては、希望する学生には、できるだけ多く経験させられるようにすることが望ましいのではないか。

欧州研修旅行は再開に向けて継続検討する。インターンシップについては、学校として取り組み方やルールを再考し、希望者には回数を増やせるよう検討する。

(7) 学生の募集と受入れ

学生募集に関しては、18 歳人口の減少に伴い応募者が減少傾向にある中、ホームページがリニューアルされ、学校の特色や授業内容などの情報提供が強化された。高校訪問も実施しているが、訪問できる校数に限界があり、今後の工夫が望まれる。また、学校の知名度を上げる必要があると思われるので、SNS を学生の委員会で運用するなどの方法を考えてみてはどうか。

高校訪問はできる限り訪問件数を増やすように努める。知名度向上に関しては鋭意取り組んでいるが、更なる対策が必要と認識している。SNS の委員会に関しては、運営していくマニュアル等の構築やコンプライアンスの遵守など整備しなければならない事項が多いため慎重に検討したい。

(8) 財務

適正な財務運営が行われているが、より安定した財務基盤を築くために、学生の確保が望まれる。

(9) 法令等の遵守

法令を遵守し適正な学校運営が行われている。

(10) 社会貢献・地域貢献

アパレル業界のプロに向けた社会貢献活動が行われているものの、ボランティア活動への取り組みがなく、今後の改善が望まれる。ボランティアとは異なるが、例えば SDGs (サステナビリティ) に取り組み、環境問題意識を高めることを考えてみてはどうか。

SDGs (サステナビリティ) について、学校としてどのような取り組みができるかを慎重に検討したい。

以上